

## 「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）15:00～17:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 24

私は●●です。東久留米市、東京都の東久留米市。河川から流水の市民運動をやっている 1 人です。これから私の意見を述べさせていただきます。

まず始めにそこに書いてありますように、ある原案をある事件を検証するとはどういうことか、ある出来事がある検証するというのをそれを作った人に検証、再検証させるということは、その作った人が誤りをその原案について誤りであると、どこか直すところがあると認識しない限り、原案と同じのが、再検証した結果出てくるという理屈になるわけです。だから、今、新聞なんかで騒がれております九電のやらせ事件、オリンパスの社長、元社長と現社長との間の争い、一応全部関係者を除いた第三者委員会にその検証を委ねております。それでも、まだ完全だというのがでないぐらい難しい問題であります。これは完全に元の人やっているもので、同じのがでてくるというのが当然の理屈であります。ですから、私ちょっと書いてありますが、再検証するときにはこの原案を作った人と無関係の人、またそこに入出入りしているコンサル以外の人。完全に無関係の人で、専門家または一般の市民から入ってもらった検証委員会をつくって、そこで作るのが一番良いのではなかろうか。なお言えば、それはなかなか合意を作るのは大変時間がかかるし難しいと思います、当初のそういうことに慣れていない場合は、仕方ないので、ある意味では多少そちらの方に原案にプロっていか親しみを持っている人のグループ、もう一つは反対のアンチと言いますか、そういうグループの 2 つの委員会を作ってもいい。それを 2 つ答申をして、最終判断者の方に出しても良い。または、そこにも書いてありますように、こういう事はオランダではオランダ方式というのがあるそうです。このオランダ方式で要するにこういうことをやる時には、市民なり反対をする人の住民なりを必ずその委員会に入れるというルールを作る。このルールに則って、再検証をやる。こういうことを是非やって頂きたい。そうすると、この最初のところにあるように、検討経緯で縷々と述べてあるような手続きはどこかおかしい。だから、いわゆる検証する手続きそのものから変えていく。こういう手続きを是非提起したい。考えてもらいたい。国段階でもそれを提案してやってもらいたい。そうしなきゃ同じことが毎度起こる。これは根本的に変えていく必要があると思います。それから、このパブリックコメントでありますけども、非常に手続き的に難しい要求が入っております。この相当の概略の案を読むだけでも、素人に、一般の市民にとっては大変な難儀である。私もこれ一週間ぐらいかけて読みました。この一つ一つに専門家でない人がコメントをするってことが大変難しいことでもあります。しかし、普通の市民の意見を吸い上げることこそ政治には必要であります。お上の意見をそのまま通すのではなくて、市民の視線に沿った意見を吸い上げる、そういう方式をするのがパブリックコメントであると思います。この公聴会及びパブリックコメント、大変良いです。大変良いから、大変良いことではありますけども、こういうこと言っでは大変失礼に当たるかもしれませんけども、ある意味ではガス抜きであります。ある意味では形式的な手続きでもあります。それが形式的でない、ガス抜きでない、先ほどからも出ておりますように、反対の意見を持っている人が一堂に会して賛成の意見と議論を交わせるような、公平でオープンな場を提供することこそ、この関東整備局の方では是非考えて頂きたい。本当の意味のそういう議論がなされないと単にこれはたとえ良いなって、それ

で終わって、はい、さよなら。これではせつかくここまで来た色々な思いを持っている人達に失礼であります。この関東整備局のみならず、私はこういう市民運動というか、河川の問題を 20 年近く昔からやっておったんですが、昔の建設省は非常に先進的でありました。今のこういうのを私なんかは想像もしなかった。河川改修に我々市民運動として反対しても全部聞き入れて、しかも先進国ではこういうことやっておりますよ。各国のヨーロッパの事情、みんなを集めて講義をしてくれる。そしてリーダーとして導いてくれた。にもかかわらず今の国交省、建設省の後釜は何ですか。その折角良い建設省の伝統を全然引き継いでいない。そういう風には感じております。ここで述べておりますように、例えばヨーロッパの河川の実情、オランダ方式、こういう事をやるときオランダではこうだ。ドイツでは、ライン川は 7 カ国 8 カ国も全部その同意をとるのは大変なことであります。そういうのを現実はどう解決してきたか、これらを先人のヨーロッパとかアメリカでもロンドンでも取り入れてこういうところに応用する姿勢が私は、国交省のこれからの方には必要。ある私の知る審議委員このメンバーの 1 人にぼろっと言われました。有識者会議は、これは理屈でなくて政治の問題。最終的に政治だから、どうにもならない、こういう話がありました。だから、本当の意味の客観的で公平でオープンな議論がなされれば、市民はたとえ敗れても、たとえ気に入らなくてもそれなりの納得ができる。これが密室で自分たちの仲間だけ集めて決めて、それでパブリックコメントもやりました、公聴会もやりました、これでは中身がない。新聞もマスコミも追従するだけです。このあとの方にもありますけど、費用対効果というのが、費用が 3400 億で効果が 2.2 兆円。6.2 倍の費用対効果であると、こういうのを私はラジオで聞いた。ある有名な評論家が八ッ場問題の解説をするとき、費用対効果で 6.2 倍の効果があるのだ。だから八ッ場ダムは必要だと、こういう理屈を言われるわけです。自分だけでなく、この国交省が言っている意見というか、そういうとすぐ使われる。私なんかには、それじゃあ今までここにも書いておりますけど、国と 1 都 5 県が出した約 9000 億っていうお金が計算に全然入っていないじゃないか。9000 億と費用有益便益が 2.2 兆、これもほんとにどうしてこういう計算が出るか私には理解できないけども、あるとしてもその費用対効果は 2.4 倍。6.2 倍と 2.4 倍とではえらい差。だから、こういう数字を出されるとその数字がマスコミやら方々に一人歩きして、八ッ場ダムは必要だという勢いに利用されていくのが今の実情であります。したがって八ッ場ダムは仕方ないという雰囲気を作るそのために作ったこの素案がこういう風に思われます。それで、わたしも書いてありますが、どう見てもはじめに結論あり。結論を導くために色んなものを持ってきている。コスト主義というのはそういうもの。費用対効果でコストが一番安い云々。こういう話であります。ダムがどのくらい重要かと、ここにも書いてありますが、朝日の 2008 年 6 月の記事でカスリーン台風並の台風に備えるために必要と説明してきた国が、実際に同台風と同じ降水パターンの場合には治水効果がないと試算している。同規模の台風の襲来があったと仮定したときの下流の観測地点のピーク流量は、ダムのある場合もない場合も同じで 20,421m<sup>3</sup>/s である。こういうことが書いてある。もう 2 年前 3 年前か、こういうのはあるっていうのは八ッ場ダムを造る意味がない。造ろうが造らないだろうが、下流地点の坂戸の観測地点では全然あるないが関係ないわけですから。9,000 億もかけてこんな関係あるカスリーン台風になんか全然意味がないようなダムを造る意味がない。こういうのが現実にはまかり通るといのが私の感想であります。そのほか東京都の先ほどいわれた埼玉県、茨城県、みんなダムに対しては水の供給と水の需要との差が、あまりにもギャップがひどすぎる。東京都は 173 トンのギャップがある。こんな。八ッ場ダムに貰いたい 50 万トン、1/3 以下ですよ。東京都は何千億もかけて、1,300 か、まだこれからかかる。そんなお金かけて拠出する必要は全然ない。だから、これからのコストでいっても八ッ場ダムは今でもやめていい。島根県の中海と宍道湖、中海の干拓事業なんかほとんど 100% 終わってもやめたんです。諫早もほとんど 100% 近いのが完

成しているけど今後やめる方向です。釧路もそうです。やめるだけでも中海の場合 9 億かかる。かかってもやめるというときにやめるべきです。その後子孫の三代先の子孫のためにもやめるべきです。これが国の政策であります。そうしなければ我々の次の世代の責任が問われるわけであります。

以上